

モニタリングレポート(平成28年度)

施設名	鈴鹿市立西部体育館				
施設所在地	鈴鹿市長澤町1828番地の2				
指定管理者名	特定非営利活動法人 鈴鹿市体育協会				
評価担当課	スポーツ課	問合せ先	059-382-9029		
施設の運営状況	(確認方法)日報, 月次報告書, 年度事業報告書				
開館日数	357日	総利用者数	20,995人	1日当たりの利用者数	59人
開館時間	午前9時から午後9時まで				
事業収支	(確認方法)年度事業報告書				
項目	計画値(単位:円)	実績値(単位:円)	計画比(単位:円)		
利用料金	3,300,000	3,515,800	215,800		
事業収入	0	0	0		
指定管理料	12,331,000	12,331,000	0		
自主事業収入	130,000	155,000	25,000		
雑収入	1,000	790	▲ 210		
収入計	15,762,000	16,002,590	240,590		
人件費	10,642,000	10,116,027	▲ 525,973		
旅費交通費	75,000	17,960	▲ 57,040		
通信運搬費	40,000	38,714	▲ 1,286		
受信料	47,000	46,549	▲ 451		
消耗品費	150,000	184,319	34,319		
物品購入費	0	45,620	45,620		
修繕費	200,000	526,000	326,000		
印刷製本費	22,000	22,651	651		
燃料費	0	0	0		
光熱水費	700,000	1,032,241	332,241		
賃借料	232,000	244,120	12,120		
手数料	0	8,560	8,560		
保険料	48,000	54,100	6,100		
委託費	571,000	569,803	▲ 1,197		
租税公課	1,011,000	999,000	▲ 12,000		
研修費	0	0	0		
諸謝金	160,000	96,000	▲ 64,000		
本部管理費	2,232,000	2,287,975	55,975		
支出計	16,130,000	16,289,639	159,639		
収支	▲ 368,000	▲ 287,049	80,951		

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	すべて適切に履行されている。
	現地調査	○	すべて適切に履行されている。
	定例報告会	○	すべて適切に履行されている。
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	H28年10月から11月にかけて実施。各施設とも満足度は高くなっている。
	現地調査	優良	衛生面や景観面等を常に配慮し、維持管理されている。
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表	○	マニュアルの確認事項はすべて問題なし。
	損益計算書	○	利益を求める団体ではないことを考慮すると問題なし。
	年度事業報告書 (事業収支表)	○	マニュアルの確認事項はすべて問題なし。
	その他財務諸表等	○	マニュアルの確認事項はすべて問題なし。
年度業務報告書の内容評価			(適)・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力、施設管理運営能力、いずれの点においても優秀な内容であり、指定管理者としての独自事業(転倒防止対策等)も非常に効果的である。			
定例報告会の頻度と内容の評価			(適)・不適
月次報告書の提出及び2ヶ月に一度報告会を開催し、報告書に関する質疑応答や課題の共有等を行った。定例報告会において、自主的な改善案の提案や現状抱えている課題について情報共有を行うなど積極的な姿勢が窺える。			
緊急時の対応評価			(適)・不適
大規模災害等の緊急事態は発生しなかったが、マニュアルを整備し、定期的な訓練を実施しており、緊急時への対応準備は整っている。また、台風の接近時は、迅速に施設利用者の安全確保を優先するなど、円滑に対応できている。加えて、指定管理者自ら、大規模災害発生時の初動体制や指定管理者としての責務について、市へ提案や協議依頼を行うなど、非常に積極的に取り組んでいる。			
指定管理者の総括評価			(適)・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力に問題はなく、自主的に各施設の課題把握に励み、課題改善のための様々な方策を提案・実行する意識の高さで、継続して利用者の安全面への配慮や利便性向上に日々努めている。			
施設の課題と対策			
つり天井改修に伴い照明設備をLED照明に更新し、併せて、指定管理者によるアリーナ床面の改修工事を実施したことで、利用者から好評を得ているため、より魅力的なスポーツ教室の開催など具体的な事業を検討していくことが課題である。			
施設の方向性			
西部地域の貴重なスポーツ施設であり、交通の利便性の面から他県よりの利用者のニーズもあるため、本市のスポーツ振興を図る上で必要不可欠な施設である。また、災害時の西部地域における防災拠点として重要な役割を担っていくことが予想されるため、今後も施設を維持していく方針である。			